

NPO法人東京オペラ協会（石多エドワード代表）による日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福伝説」

「蓬萊の国 徐福伝説」の一場面＝5日、小松電機ホール

共生をテーマにオペラ

東京オペラ協会 日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福伝説」



伝説」のハイライト公演が5日、小松電機産業株式会社・人間自然

科学研究所内にある太陽ホール（松江市乃木富）で開催された。東京オペラ協会は1

976年に設立。オペ

ラを通じた国際交流、一般の市民と共に楽しめるオペラをコンセプトに国内外で公演活動を行っている。最初に石多さんと同協会の活動を紹介し、さまざま

な歌を披露。国内では珍しいハンガリーの民

族楽器・ツインバロン奏者の斎藤浩さん（松江市在住）と同協会メンバーとの共演もあつた。その後、オリジナルオペラ「蓬萊の国 徐福伝説」のハイライト

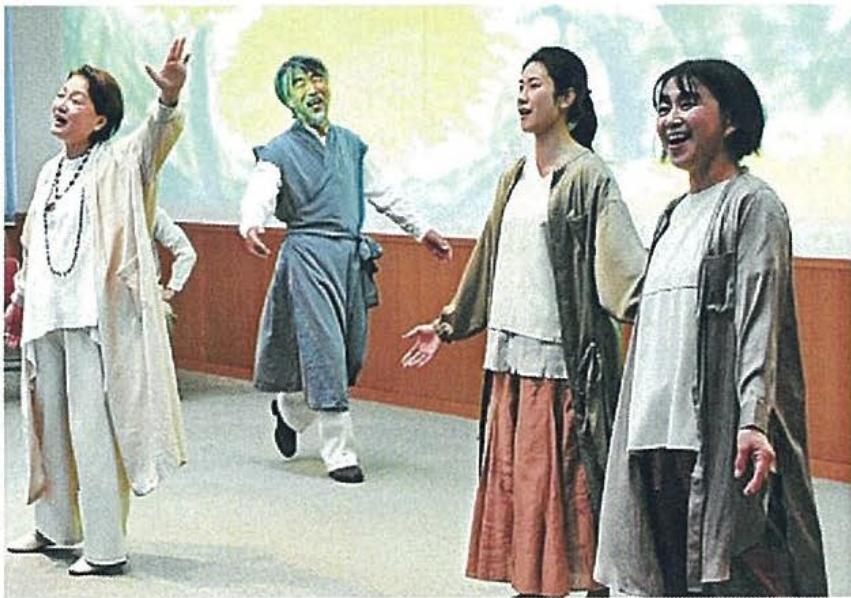
を上演。作品は「司馬遷の史記にある徐福を題材にしたものです。徐

福が秦の始皇帝の命令で、不老不死の仙薬を蓬萊の国・日本に求めて来たことにヒントに、「不老不死とは何

か」「人間の幸せはどうあるか」「自然とともにされることの喜びをなぜ忘れていたのか」など、自然と人間の共生をテーマにオペラを存をテーマにオペラを披露。出雲の国から全ての命が共に歩む道を指し示す作品となっていた。

公演後、「日本の縁結びから世界の縁結びへ対立の文明から共生の文化へ」を題材に、石多代表と同社会長兼社長の小松昭夫さん、劇団幻影舞台座長の清原真さんによる特別座談会も開催された。

不老不死とは何かを問い合わせる
出演者



歌声乗せた演技に魅了

松江、東京オペラ協の公演

東京オペラ協会（石多エドワード代表）の全国縦断コンサート「こんなに空が青い」（文化庁支援事業）の松江公演が5日、小松電機産業（松江市）内のホールで開かれた。不老不死を求める中国の徐福伝説を基にしたオペラで、約百人の観客は出演者の歌声や出雲地域が舞台のストーリーに魅了された。

秦の始皇帝の命令で不老不死を求める旅に出た徐福が、出雲の地を訪ねる設定でハイライト版が演じられた。

石多代表演じる徐福は自然豊かな出雲の地で、幸せに暮らす人々や森の精霊らとの出会いを通して、不老不死とは何かを歌声に乗せて問い合わせた。公演後には小松電機産業の小松昭夫会長兼社長と石多代表、劇団幻影舞台の清原真主宰の特別座談会「対立の文化から共生の文化へ」もあった。（高塚直人）